



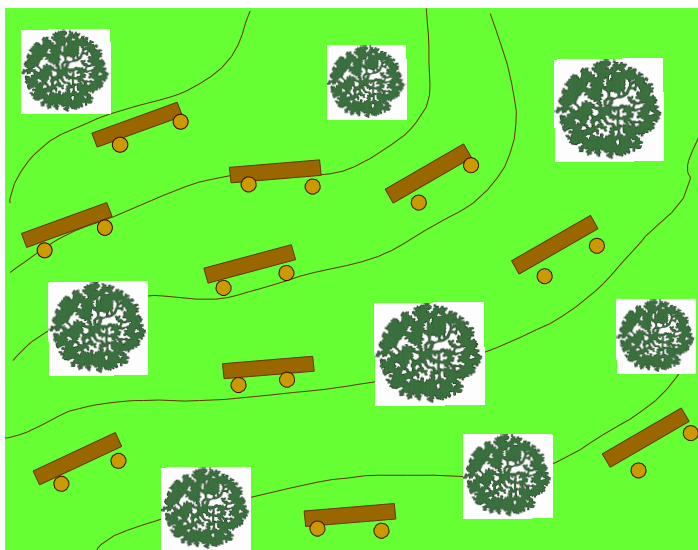
STEP 8

作業の手順 里子の揺りかごを作る

施肥ダムの作り方 (図1)

切り倒された木は森の再生のための貴重な資源です。
幹も枝も全て有効に活用して里子の成長に役立てます。
自己施肥機能の回復を手助けする手段です。

- 1) 伐採された木の枝を払い、幹を保護柵用に利用できる長さに玉切りする。
- 2) 揺りかごを設置する位置 (図1参照) を考え、玉切りした幹を仮置きします。
- 3) 全体にバランスよく配置されたら、固定します。



プレントピア施肥ダム方式写真



再生保護柵のレイアウト上の注意

- 1) 林床全体を見渡して斜面に垂直にバランス良く配置する事。
注：整然と並べないように！（水路を作ってしまう逆効果）
- 2) 通路部分のゆとりを考慮する事。
- 3) 柵の丸太は末口と元口が必ず等高になるように設置する事。

プレントピア方式は26年に渡る森の再生で蓄積された手法です。目的の違いから通常の林業手法とは異なる部分も数多くありますので、ことに林業経験者の方は御注意ください。

森の再生のための基本的な考え方

生態系が活性化した森は、樹木の落とした葉や枝あるいは動植物の死骸などを腐朽菌が朽ちさせ、その有機物を地中のバクテリアなどの菌が無機物に変えて再び木草類の肥料となっています。これを自己施肥機能と言います。また、虫害も生態系の中の天敵の存在がその異状発生を制御しているのです。従って施肥も病虫害の駆除も厳禁で、ひとの施業は生態系の機能の回復を手助けすることであると心得てください。プレントピアの施肥ダム方式は、そうした考え方に基づいた生態系の機能の回復を手助けする施業です。

作業の手順

施肥ダムの作り方 (図2)

- 1) 伐採によって残された樹木の間の日当たりのある林床に、バランスの良い間隔で伐採し玉切りした幹が等高になるように設置します。
- 2) ダムにした丸太が動かないよう谷側を支えます。
伐採された根株を利用します（適当な根株がない場合は伐採したための枝で杭を創って打ち込みます）
- 3) 丸太の山側に下刈りした草や、枝打ちした枝葉を積み上げます。



施肥ダムの効果

- 1) 降雨の際の土砂の流出を防ぎ、保水機能を保つ。
- 2) 堆積させた枝葉が堆肥となり、
長期に渡って幼木への施肥機能を果たす。
- 3) 植栽した幼木の雨、風の保護をする。

